

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	34人	算数	34人	理科	34人
第5学年	国語	33人	算数	33人	理科	33人

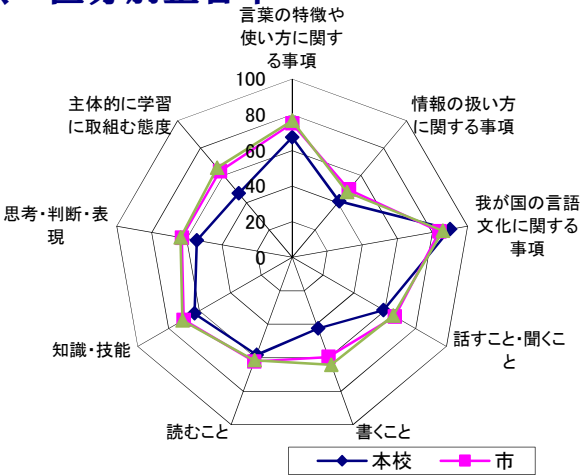
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.3	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	41.1	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	90.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	59.3	66.5	65.5
	書くこと	42.5	59.6	64.2
	読むこと	58.3	62.2	61.5
観点	知識・技能	63.3	70.2	71.1
	思考・判断・表現	54.4	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	46.7	63.0	65.5



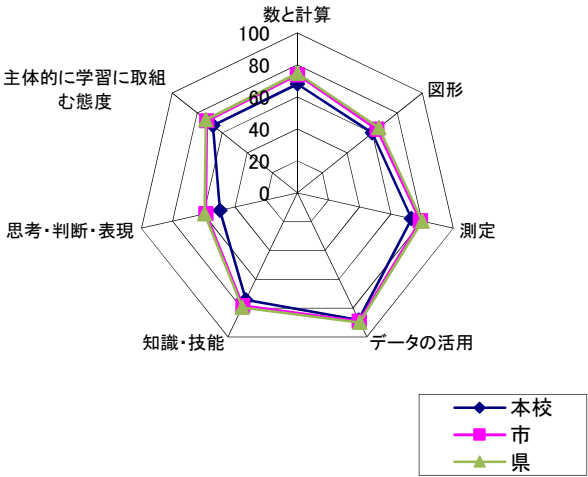
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は67.3%で、県の平均を9.4ポイント下回った。 ○主語と述語を答える問題では、正答率が83.3%で県の平均を9.0ポイント上回った。 ●漢字を書く問題(研究・湯・起きる)では、3問とも県の平均を14.0ポイント以上下回っている。中でも「研究」は、無回答率が30ポイントであった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習の時間等を使って、既習の漢字の読み・書きを復習する時間を設け、反復練習することで定着を図る。 ・文章の音読を通して、漢字の読みを声に出す機会を多く持つ。
情報の扱い方にに関する事項	・平均正答率は41.1%で、県の平均を6.7ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけ要約する問題では、県の平均を12.1ポイント下回り、正答率は43.3ポイントだった。	・調べたことを文章にまとめる活動を多く行う。 ・自分の考えを述べたり書いたりする際にはキーワードとなる言葉を使い短文を書くことで、意見を端的に表せるようにする。 ・思ったことや考えたことを各教科でも記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	・平均正答率は90.0%で、県の平均を4.1ポイント上回った。 ○漢字のへんを答える問題で、上回った。	・漢字を部首ごとに分けたり、新出漢字の部首を調べさせたりして、授業の中で漢字のつくりを理解する機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は59.3%で、県の平均を6.2ポイント下回った。 ○話し手の伝えたいことの中心を捉える問題では、正答率が96.7%であり、県の平均を6.5ポイント上回っている。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる問題では、正答率は33.3%で県の平均より17.5ポイント下回った。	・話し合い活動を行う際には、自分の考えや、考えの根拠を明らかにして話すことを指導する。 ・意見を述べた児童には理由を問い返し、自分の考えの根拠を持つよう意識付けを図ったり、また、聞いている児童に内容を問い返し、どんなことを言っていたのか要約させたりする。
書くこと	・平均正答率は42.5%で、県の平均を21.7ポイント下回った。 ●自分の考えを書く問題では、「指定された長さで文章を書くこと」が33.3%、「段落の役割を理解し、2段落構成で文を書く」が30.0%と低い正答率であった。どちらも、無回答率が33.3ポイントであることから、時間内に問題を解くことが出来なかった児童が一定数いることが分かる。	・思ったことや考えたことを各教科で記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。 ・学校行事や生活等の振り返りを短作文に書かせるなど、継続的に作文指導を行う。その際、字数や行数を指定したり、理由を明らかにさせたりし、決められた枠組みの中で書く活動を行う。
読むこと	・平均正答率は58.3%で、県の平均を3.2ポイント下回った。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題では、正答率が83.3%で県の平均を5.5ポイント上回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題では正答率が43.3%で、県の平均を12.0ポイント下回った。	・物語文の学習では、登場人物の気持ちや思いを文章から読み取る活動を繰り返し行う。 ・説明文の学習では、筆者の考えが表れている言葉や文章、段落に気を付けて、内容を正確に読み取れるようにする。 ・図書室へ行く時間を設けたり、朝の読書の時間を活用したりして、読書に親しむ態度を養う。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	73.8	74.8
	図形	60.0	63.7	65.3
	測定	73.3	78.9	80.1
	データの活用	88.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	74.3	78.3	79.5
	思考・判断・表現	49.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	67.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

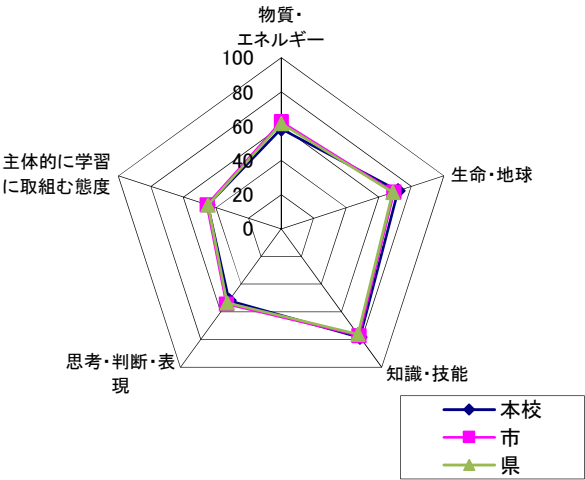
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、県の平均を6.8ポイント下回っている。 ○同分母の真分数＋真分数＝真分数の計算問題では、正答率が100%で、県の平均を3.9ポイント上回った。 ●2桁×2桁のかけ算の計算問題では、正答率が53.3%で、県の平均を13.5ポイント下回った。 ●文章問題を解くために除法の立式ができるかを問う問題では、正答率が40.0%で、県の平均を30.6ポイント下回った。	・朝の学習の時間を活用したり、少人数学習や習熟度別学習の時間を利用したりして、正しい四則計算のやり方を定着させる。 ・文章問題から立式に必要なキーワードを読み取ったり、問題の場面を考えて文章問題を作成したりすることを繰り返し行い、習熟を図る。
図形	・平均正答率は、県の平均を5.3ポイント下回っている。 ○二等辺三角形の作図の問題では、正答率が93.3%で、県の平均を5.1ポイント上回った。 ●円の直径を問う問題では、正答率が80.0%で、県の平均を5.7ポイント下回った。 ●円の半径とコンパスの使い方について問う問題では、正答率が56.7%で、県の平均を18.5ポイント下回った。	・直径や半径、円周といった円の特徴を表す言葉について確実に理解できるよう、AI型ドリルやワークシート等を活用して復習の機会を多く設ける。 ・円の作図を指導する際には、十分な時間と、人員を確保し、定規やコンパスの適切な使い方を確実に定着させる。他の授業内でも定規やコンパスを意図的に使わせる。
測定	・平均正答率は、県の平均を6.8ポイント下回っている。 ○はかりの目盛りの読み方について問う問題では、正答率が86.7%で、県の平均を0.2ポイント上回った。 ●地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では、正答率が76.7%で、県の平均を8.7ポイント下回った。 ●身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す問題では、正答率が53.3%で、県の平均を14.3ポイント下回った。	・距離や道のりを求める問題について、文章題だけではなく、地図から距離や道のりを求める問題にも取り組ませ、多様な情報を読み取って立式できるようにする。 ・身近な物の重さを実際に量る活動を多く取り入れ、物の重さの感覚が身に付くようにする。また、物の重さを推察させたり、実際に量ったりさせることで、より豊かな量感を養わせる。
データの活用	・平均正答率は、県の平均を1.7ポイント下回っている。 ○棒グラフを読み取る問題では、正答率が90.0%で、県の平均を0.2ポイント上回った。 ●棒グラフで、1目盛りの表す数を答える問題では、正答率が86.7%で、県の平均を3.5ポイント下回った。	・グラフの読み方について、社会・理科・総合的な学習の時間でも取り扱うことで、縦軸・横軸の意味を正しく理解しグラフを読みとれるよう指導する。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.4	62.5	61.5
	生命・地球	71.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	78.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	51.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県の平均を3.1ポイント下回っている。 ○糸電話の音の伝わり方を元に、糸をつまんだ箇所を指摘できることを問う内容については、正答率が76.7%で県の平均を6.7ポイント上回った。 ○車の動き方が風の向きや強さによって決まることを理解していることを問う内容については、正答率が93.3%で県の平均を5.2ポイント上回った。 ●電気の通りの道の回路を理解していることを問う内容については、正答率が53.3%で県の平均を15.3ポイント下回った。 ●実験の結果から、ゴムを伸ばす長さや車の動く距離を推測する内容については、正答率が56.7%で県の平均を10.9ポイント下回った。	・電気の通りの道の項目は全体的に県の平均を下回った結果になった。そのため、フォローアップシートなどを活用し、基礎的な内容の更なる定着を図る。 ・理由を推測したり、記述したりする内容については、自分の考えを言葉で書かせたり、グループで話し合ったりすることで、知識の活用力や表現力を高められるようにする。
生命・地球	・平均正答率は、県の平均を3.2ポイント上回っている。 ○虫眼鏡の使い方を身に付けていることを問う内容では、正答率が63.3%で県の平均を12.4ポイント上回った。 ○完全変態と不完全変態の昆虫を問う内容では、正答率が83.3%で県の平均を17.0ポイント上回った。	・実験器具の使い方についてはよく理解し、使いこなすことができている。更に実験器具を使った学習を深めていく。 ・昆虫の生態や体の仕組みについてさらに知識を深められるように、身近な場所にいる昆虫の観察をしたり、図鑑で調べたり、ICT機器を活用したりして情報をより得られる手立てを取り入れる。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は100.0%であり、県を5.4ポイント上回っている。家庭学習については、提出率も高く、ほとんどの児童が習慣化することができている。今後も一人一人の取組を認め、賞賛していくことでさらにやる気が向上するようにする。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の本校の肯定的回答の割合は100.0%であり、県を6.7ポイント上回っている。授業では話し合い活動に意欲的に参加する児童が多く、話を聞いてもらえるという安心感が活発な話し合いにつながっていると考えられる。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている。」の本校の肯定的回答の割合は県を5.1ポイント上回っている。特に「はい」と回答した割合は63.3%で県を14.1ポイント上回っている。男女分け隔てなく関わり合える児童たちの雰囲気がいやりの意識につながっていると考えられる。

○「次の教科などの学習は好きですか。総合的な学習の時間」の本校の肯定的回答の割合は100.0%であり、県を14.4ポイント上回っている。日頃から積極的にタブレットを授業中に活用することで、操作スキルの向上だけでなく、タブレットなどを使って調べ学習を進めたり、調べたことをスライドにまとめたりする学習活動への意欲向上につながっていると考えられる。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」「家で、学校の授業の復習をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の本校の肯定的回答の割合は、いずれも40%台であり課題がみられる。予習や復習のやり方やその重要性について明確に示したり、取り組んでいる児童のノートを共有したりしてクラス全体に広げていくことが必要。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく。)」では「10分より少ない」が30.0%で最も多かった。休み時間には係活動やタブレットの学習アプリなどを利用していることが、休み時間の読書時間の低下につながっていると考えられる。読書の時間を確保できるように休み時間の過ごし方などについて検討していく。

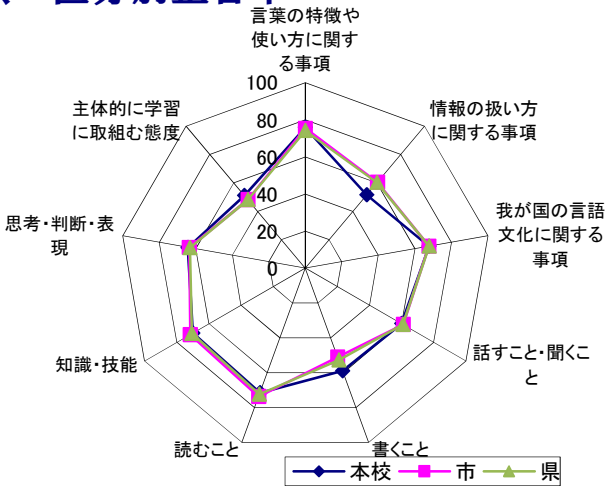
●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」の本校の肯定的回答の割合は40.0%で県を18.7ポイント下回っており、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の本校の肯定的回答の割合は70.0%と県を14.1ポイント下回っている。学習内容の基礎基本がまだ身に付いていない児童や不安を感じている児童が多いことがこの結果につながっていると考えられる。スモールステップで課題解決ができるように課題の提示の仕方を工夫したり、日々の生活の中で達成感を得られる活動を増やし、諦めずに粘り強く取り組む態度を育てる。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく。)」では「4時間以上」が30.0%で最も多く、家庭でもタブレット等の情報機器を日常的に使っている児童が多いことがわかる。また「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)を読みますか。」では「1時間以上、2時間より少ない。」が36.7%で最も多かった。動画の視聴やゲームをする時間のルール作りや学級活動の時間等に話し合いを設けるなど、情報機器の使い方について啓発していく。また、家庭への啓蒙と協力をお願いをするなど、家庭と連携して指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.8	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	51.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	67.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	60.0	61.0	60.7
	書くこと	58.9	51.2	52.8
	読むこと	71.5	73.7	72.4
観点	知識・技能	70.0	71.7	70.6
	思考・判断・表現	64.3	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	51.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

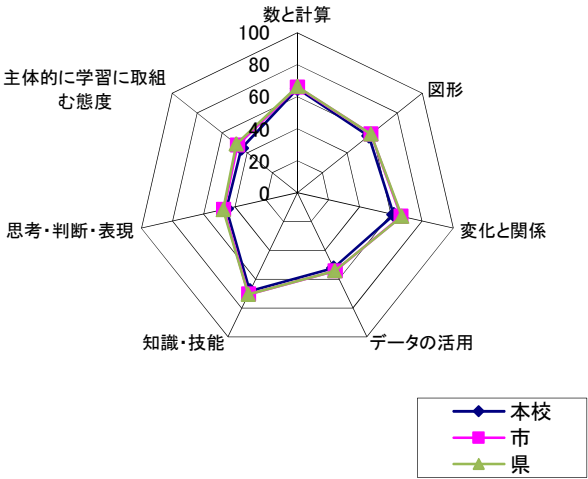
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を1.7ポイント上回った。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく書いている」という設問では、「覚める」の正答率が93.5%で、県の正答率を20.6ポイントも上回っている。 ●「連帯修飾語についてを理解している」の設問では、正答率が64.5%で、県の正答率を6.5ポイント下回っている。	・修飾語等の理解を進めるために、文章中の文法の相互関係等に注意しながら内容の読み取りを進めていくなどの学習を行う。
情報の扱い方にに関する事項	・平均正答率は、県の平均を8.6ポイント下回った。 ●「漢字辞典の使い方を理解している」の設問では、正答率が67.7%で、県の正答率を12.6ポイント下回っている。	・高い漢字力を生かして、学習時に合わせて国語辞典を活用する機会を増やし、辞典の使い方に慣れるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	・平均正答率は、県の平均とほぼ同じ結果となった。 ・「ことわざの意味を知り、正しく使っている」という設問の正答率は67.7%で、県の正答率とほぼ同じである。	・昨年度の指導の重点課題から、ことわざ辞典などを活用して言葉を身に付けさせる学習が効果を発揮してきたと思われる。今後も継続して辞典等の活用を行う。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、県の平均を0.7ポイント下回った。 ○「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている」という設問では、正答率が54.3%で、県の正答率を8.3ポイント上回っている。 ●「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」という設問では、正答率が80.6%で、県の正答率を6.0ポイント下回っている。	・話し合いや発表の機会を多く取り入れて、自分の考えや伝えたいことの中心を、道筋を立てて話したり発表したりできるようにしていく。
書くこと	・平均正答率は、県の平均を6.1ポイント上回った。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。」という設問では、正答率が64.5%で、県の正答率を11.5ポイント上回っている。 ○「指定された長さで文章を書いている」という設問では、正答率が71.0%で、県の正答率を9.0ポイント上回っている。	・今後も行事の後の作文指導や、日頃の学習に於いて自分の意見や理由などを端的に記入させるように指導していく。
読むこと	・平均正答率は、県の平均を0.9ポイント下回った。 ○「叙述を基に段落相互の関係を捉えている」という設問では、正答率が93.5%で、県の正答率を17.3ポイント上回っている。 ●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている」という設問では、正答率が25.8%で、県の正答率を18.5ポイント下回っている。	・物語等の読み取りや内容理解の指導に於いて、登場人物の心情の読み取りや場面の様子などの理解を深められるように、授業を進めていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.0	66.1	66.4
	図形	57.1	58.9	58.8
	変化と関係	61.9	66.6	67.0
	データの活用	52.4	54.4	54.2
観点	知識・技能	68.2	70.4	70.6
	思考・判断・表現	45.5	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	44.7	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

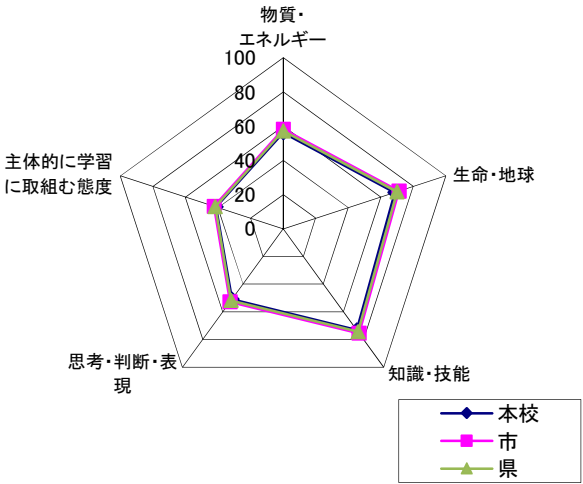
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は65.0%で、県の平均を1.4ポイント下回っている。 ○概数に対応する数の範囲を答える問題では正答率が71.0%で、県の平均を13.6ポイント上回った。 ●四則や()の混じった式の計算順序を答える問題では正答率が58.1%で、県の平均を10.0ポイント下回った。分配法則を使う問題では正答率が38.7%で、県の平均を9.4ポイント下回った。	・()の中を先に計算することは分かっているが、たし算ひき算とかけ算わり算がまじった問題に課題が見られた。また、分配法則の問題では()を外して計算することが、工夫することと理解していない児童が61.3%だった。分配法則を使えば速く、間違いが少ないことや、今後の算数の学習にも使うことを指導していく。
図形	・平均正答率は57.1%で、県平均を1.7ポイント下回っている。 ○直方体のある面に平行な辺を答える問題では正答率が74.2%で、県の平均を13.0ポイント上回った。 ●平行四辺形を作図する問題では正答率が22.6%で、県の平均を37.7ポイント下回った。	・直方体の辺の関係についてなど、基礎的な内容については理解している。しかし、コンパスや分度器、定規など実物を使った操作活動に苦手意識を持つ児童が多い。作図の学習の際、手順や方法だけでなく、それらと関連する平行四辺形の約束や性質と結びつけ、図形の理解を深めることや繰り返し復習することで定着を図りたい。
変化と関係	・平均正答率は61.9%で、県平均を5.1ポイント下回っている。 ○基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では正答率が71.0%、県の平均を2.4ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める問題では正答率が67.7%で、県の平均を17.6ポイント下回った。	・伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題に課題が見られた。AI型学習ドリルや計算ドリルなどを活用し、□を使った式を立ててから数字を当てはめて、値を求める解法の定着を図る。また、他教科や学校生活様々な場面で、倍を使った表現を使えるような活動を取り入れていく。
データの活用	・平均正答率は52.4%で、県平均を1.8ポイント下回っている。 ○折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では正答率が61.3%で、県の平均を9.1ポイント上回った。 ●二次元数の読み方を理解する問題では、正答率が71.0%で、県の平均を7.6ポイント下回った。	・これまで以上に、他教科や学校生活の様々な場面で、表やグラフを読んだり表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育てる。また、読み取ったことから考えられることを文章でまとめる学習も取り入れて、資料を分析する力を育てていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.2	58.1	57.2
	生命・地球	68.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	50.9	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	41.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は、県の平均を1.0ポイント下回っている。 ○乾電池を2個使って乾電池が1個の時よりも速く走る車にするための回路を作図することを問う内容については、正答率が41.9%で県の平均を8.6ポイント上回った。 ●水の姿の実験の結果を構想することができる内容については、正答率が48.4%で県の平均を9.0ポイント下回った。 ●温度による空気の体積の変わり方を問う内容については、正答率が77.4%で県の平均を5.3ポイント下回った。	・日常生活における自然現象について、科学的な視点から観察や考察をする機会を意図的に設定したり、実験・観察などの体験的な活動をする機会を増やしたりするとともに、AI型学習ドリル等のICTを活用して学習内容を復習することで、学習内容のさらなる定着を図る。
生命・地球	・平均正答率は、県の平均を1.3ポイント下回っている。 ○方位磁針の使い方を問う内容については、正答率が74.2%で県の平均を14.1ポイント上回った。 ○半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月かを問う内容については、正答率が32.3%で県の平均を8.7ポイント上回った。 ●季節と桜の様子を問う内容については、正答率が61.3%で県の平均を8.3ポイント下回った。 ●気温の変化のグラフとへちまの茎の伸び方の関係を問う内容については、正答率が45.2%で県の平均を6.9ポイント下回った。	・観察の難しい動植物の生態については、ICTや図書資料を活用し、興味や関心を持って学習できるようにする。 ・1年間の植物や動物の様子についての理解が県の平均よりも低いので、フォローアップシートなどの教材をうまく活用して児童に基礎基本の知識を身に付けるように努める。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の本校の肯定的回答の割合は87.1%であり、県を14.4ポイント上回っている。教師に指示されたことだけでなく、自分で決めて家庭学習することが定着しつつある。自学ノートからは、自分なりに工夫して学習した頑張りの成果が目に見えることで、満足感や達成感を味わうことができた。「学校の宿題はやりたくない内容だ。」の問いに「はい」と答えた児童は、県を6.8ポイント上回った。今後も一人一人の取組を認め、賞賛していくことでさらにやる気が向上するようにする。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」で3～4冊以上と回答したの割合は90.3%であり、県を22.1ポイント上回っている。読書を通して新しい知識を身に付けたり、興味を広げるなど、様々な力を育てていきたい。また、5年生にふさわしい本を選べるよう、読書の量に加えて読書の質についても指導を図る。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」の本校の肯定的回答の割合は90.4%であり、県を7.8ポイント上回っている。これからも、全員が自分の意見を伝えることができ、みんなが友達の意見を受け入れることができるクラスの雰囲気を作っていきたい。

●「友達と話し合うとき、友達の話を最後まで聞くことができる。」の質問に「はい」と答えた本校児童の割合は45.2%であり、県を23.4ポイント下回っている。自分の意見を積極的に発言することをよしとするだけでなく、相手の言葉を理解しようとして、聞くことの大切さを身に付けさせたい。聞くことと話すことの双方向きを築くことで、対話的な学びを深めていく。

●「ものごとを最後までやりとげうれしかったことがある。」の質問に「はい」と答えた本校児童の割合は64.5%であり、県を8.8ポイント下回っている。学校生活の中でめあてをもって取り組み、最後までやり遂げる成功体験を積み重ねることで、自信をもたせたい。また、「自分にはよいところがあると思う。」の質問に「はい」と答えた本校児童の割合は32.3%であり、県を16.0ポイント下回っている。このことから、個々にめあてをもたせるだけでなく、集団として共通のめあてをもち、ともに高め合う機会を大切にしていきたい。そして、クラスの中で一人一人が役割をもち居場所を確保することで、「人の役の立つ」「人に喜ばれる」「人に必要とされる。」など、自己有用感を味わわせたい。

●「次の教科などの学習は好きですか。社会」の質問に「はい」と答えた本校児童の割合は9.7%であり、県を25.8ポイント下回っている。「図やグラフなど情報量が多すぎて処理できない。」「覚えなければいけないことがたくさんあること。」が理由として考えられる。しかし、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」の本校の肯定的回答の割合は87.1%あり県を3.0ポイント、「ぎ問や不思議に思うことは分かるまで調べたい。」の本校の肯定的回答の割合は67.7%であり県を3.1ポイントそれぞれ上回っている。児童がもつ旺盛な好奇心を大切に、社会の問題や出来事に興味関心をもたせ、「社会は楽しい。」という意識を育てるためにも、児童の「なぜ？」を大切にしながら、学習意欲を引き出せる魅力ある授業を心掛けたい。

宇都宮市立平石北小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「基礎・基本を確実に習得し、それらを活用する力の育成」 ～楽しい・わかる・できる授業の実現～	基礎・基本の確実な習得(めあての提示と振り返りの重視)、ICT等の有効活用した個に応じた指導の充実、言語活動や読解力向上のための読書活動の充実。	4年生は県平均に比べて、国語と算数の基礎力に関わる正答率が低かった。5年生は国語と理科、4年生の理科は、県平均に比べて高いか同等の値であった。しかし、昨年度の本校の正答率と比較すると「基礎」に関わる正答率は高くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎力を問う問題の正答率より、活用力を問う問題の正答率が低い傾向がみられ、思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題がみられる。	基礎・基本を確実に習得し、得られた知識・技能を活用しながら課題を探究し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	今年度の重点的な取組を今後も継続し、基礎・基本の確実な習得を目指す。「できた」と実感できる授業の展開、ICT等の有効活用した個に応じた指導の充実、読書に親しむ場の設定、自主学習の推奨等を粘り強く取り組めるようにする。